

## 西表島で撮影された水中写真に基づく *Egglestonichthys rubidus* (ハゼ科) の北半球からの初記録, および *Egglestonichthys* の新標準和名ライテイハゼ属

藤原恭司<sup>1</sup>・鈴木寿之<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup>

### Author & Article Info

<sup>1</sup> 鹿児島大学大学院連合農学研究科 (鹿児島市)  
kyojifujiwara627@yahoo.co.jp (corresponding author)

<sup>2</sup> 大阪市立自然史博物館 (大阪市)  
eviotatoshiyuki@gmail.com

<sup>3</sup> 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)  
motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 23 March 2021

Revised 28 March 2021

Accepted 29 March 2021

Published 30 March 2021

DOI 10.34583/ichthy.6.0\_74

Kyoji Fujiwara, Toshiyuki Suzuki and Hiroyuki Motomura. 2021. First Northern Hemisphere record of *Egglestonichthys rubidus* (Gobiidae) based on an underwater photograph from Iriomote Island, Yaeyama Islands, Japan, and a proposal of the standard Japanese name for the genus *Egglestonichthys*. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 6: 74–75.

### Abstract

An underwater photograph of *Egglestonichthys rubidus* Allen, Erdmann and Brooks, 2020 was taken at a depth of 10 m off Iriomote Island, Yaeyama Islands, southern Ryukyu Archipelago, Japan. This species was previously known only from two type specimens collected from Papua New Guinea. Thus, the present underwater photograph represents the first record of *E. rubidus* from the Northern Hemisphere. The new standard Japanese name for the genus *Egglestonichthys* was proposed on the basis of a Japanese specimen of *Egglestonichthys fulmen* Fujiwara, Suzuki and Motomura, 2020.

鈴木ほか (2021) は、日本産ハゼ亜目魚類について水中写真に基づき網羅的にまとめた鈴木ほか (2007) の増補・改訂版として出版され、68 種を新たに追加し、合計 534 種のハゼ亜目魚類を掲載した。追加種の中には未同定で掲載されている種も存在し、今後の分類学的新知見の情報やさらなる調査が期待されている。本研究では、鈴木ほか (2021) で「ハゼ科の 1 種 -16, *Egglestonichthys* sp.」と同定された水中写真の個体について再検討を行ったところ、写真から分かる特徴がパプアニューギニアからのみ知られている *Egglestonichthys rubidus* Allen, Erdmann and Brooks, 2020 と一致することが明らかになった。また、日本産の *Egglestonichthys* Miller and Wongrat, 1979 は本種の

他にライテイハゼ *Egglestonichthys fulmen* Fujiwara, Suzuki and Motomura, 2020 が含まれるが、本属に適用すべき標準和名についてはこれまで提唱されていなかった。そこで、本研究では水中写真に基づき、*E. rubidus* を日本産 *Egglestonichthys* の 2 番目の種として報告するとともに、今後 *Egglestonichthys* に適用すべき標準和名の混乱を避けるため、*E. fulmen* に基づき本属に新たに標準和名を提唱する。

### 材料と方法

本報告で用いた水中写真 (Fig. 1) は八重山諸島の西表島で撮影され、鈴木ほか (2021) で「ハゼ科の 1 種 -16, *Egglestonichthys* sp.」に同定されたものである。標準体長は体長と表記した。比較標本として使用した *E. fulmen* のホロタイプは Fujiwara et al. (2020) にリストされている。

### 北半球初記録の *Egglestonichthys rubidus*

水中写真の個体 (Fig. 1) は、背鰭と臀鰭の基底が短く、第 2 背鰭と臀鰭がそれぞれ 1 棘 7 軟条であること、胸鰭軟条数が 18、縦列鱗数が約 27、吻部が丸みをおびること、頭部背面の鱗域が両眼間隔中央に達すること、頬部と鰓蓋が完全に鱗で覆われること、尾鰭後縁が丸いこと、および体と各鰭は赤色がかった褐色で、背鰭と臀鰭の縁辺は多数の小白色点で縁取られることなどの特徴が Allen et al. (2020) が示した *E. rubidus* の識別的特徴とよく一致したため、本種に同定された。Allen et al. (2020) は本種の横列鱗数を 7 と記載したが、水中写真の個体では少なくとも横列鱗が 8 枚みられた。しかし、この相違は同属他種でも同程度の変異が確認されているため (例えば、*Egglestonichthys ulbubunitij* Larson, 2013 の横列鱗数は 7–9; Larson, 2013), *E. rubidus* の種内変異と考えるのが妥当である。

Allen et al. (2020) は *E. rubidus* の生息環境として、タイプ標本の 2 個体 (体長 15.5–21.2 mm) が水深 18 m の泥底から採集されたことを記載した。西表島の水中写真の個体は、水深 10 m の泥底で撮影されており (Fig. 1), 同島でも本種は Allen et al. (2020) の示した生息環境と同様の環



Fig. 1. Underwater photograph of *Egglestonichthys rubidus* from Iriomote Island, Yaeyama Islands, Japan, 10 m. Specimen not collected. Photo by K. Yano.

境を好むことが示唆された。また、鈴木ほか (2021) は本種 (*Egglestonichthys* sp. として掲載) の生息状況において、泥底や軟泥底の他の生物の生息孔にシラスキバハゼ *Paedogobius kimurai* Iwata, Hosoya and Larson, 2001 とともにみられることを記載している。

*Egglestonichthys rubidus* は原記載以降、追加記録がないため、西表島で撮影され、本研究で *E. rubidus* に同定された水中写真の個体は、本種の北半球からの初記録となる。*Egglestonichthys rubidus* に適用される標準和名はないため、今後、日本産の本種の標本と詳細な記載に基づく提唱が望まれる。

#### ***Egglestonichthys* Miller and Wongrat, 1979 の標準和名**

*Egglestonichthys* は Miller and Wongrat (1979) によって、彼らの新種 *E. patriciae* Miller and Wongrat, 1979 をタイプ種として設立された。その後、Larson and Hoese (1997) は *E. bombylios* Larson and Hoese, 1997 を本属に含まれる2番目の種として記載するとともに、*Callogobius melanoptera* Visweswara Rao, 1971 の帰属を *Egglestonichthys* とした。*Egglestonichthys* は現在、上記の3種に *E. fulmen*, *E. rubidus*, および *E. ulubunitij* を加えた6種から構成される (Fujiwara et al., 2020)。

Fujiwara et al. (2020) は沖縄島の水深 250 m から得られた1個体に基づき、*E. fulmen* を新種記載するとともに、体側上の特徴的なジグザグ状黄色帯に因み新標準和名「ライテイハゼ」を提唱した。Fujiwara et al. (2020) は *Egglestonichthys* に含まれる種の日本国内における初めての報告であったが、本属に対する新標準和名の提唱を行わなかった。鈴木ほか (2021) は *Egglestonichthys* sp. を掲載したが、ここでも *Egglestonichthys* に対し標準和名は与えられていない。本研究により日本産 *Egglestonichthys* はライテイハゼ *E. fulmen* と *E. rubidus* の2種が知られることとなったが、標準和名が与えられているのは前者のみである。したがって、本属に適用すべき標準和名としてライテ

イハゼ属 (新称) を提唱する。なお、両種は上述した体の色彩に加え、第2背鰭と臀鰭の軟条数 (ライテイハゼではそれぞれ10と9であるのに対して、*E. rubidus* ではそれぞれ7)、および頬部と鰓蓋の被鱗状態 (前者では全く被鱗しないのに対して、後者では全て被鱗する) などから明瞭に識別される。

#### **謝 辞**

本稿を執筆するにあたり、ダイビングサービス YANO の矢野維幾氏には水中写真 (Fig. 1) を撮影・使用の許可をいただいた。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 研究奨励費 (DC1: 19J21103)、JSPS 科研費 (20H03311)、JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

#### **引用文献**

- Allen, G. R., M. V. Erdmann and W. M. Brooks. 2020. *Egglestonichthys rubidus*, a new species of marine goby (Pisces: Gobiidae) from Milne Bay Province, Papua New Guinea. *Aqua, International Journal of Ichthyology*, 26: 41–48.
- Fujiwara, K., T. Suzuki and H. Motomura. 2020. A new species of *Egglestonichthys* (Teleostei, Gobiiformes, Gobiidae) from Okinawa Island, Japan. *ZooKeys*, 1006: 91–98. (<https://zookeys.pensoft.net/article/58874/>)
- Larson, H. K. and D. F. Hoese. 1997. A new species of *Egglestonichthys* (Teleostei: Gobiidae) from the Indo-West Pacific, with discussion of the species of the genus. *The Beagle, Records of the Museums and Art Galleries of the Northern Territory*, 13: 45–51.
- Miller, P. J. and P. Wongrat. 1979. A new goby (Teleostei: Gobiidae) from the South China Sea and its significance for gobioid classification. *Zoological Journal of the Linnean Society*, 67: 239–257.
- 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾・瀬能 宏. 2004. 決定版 日本のハゼ. 初版. 平凡社, 東京. 536 pp.
- 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾・瀬能 宏. 2021. 新版 日本のハゼ. 新訂・増補版. 平凡社, 東京. 587 pp.